

## 反証可能性をめぐって

### インテリジェントデザインの反証不可能性

インテリジェントデザイン"理論"はつきつめれば「進化論で説明できなければ、それはデザインだ」という主張である。この形式論は"Negative Argument"と呼ばれ、主張する仮説そのものではなく、考えられるすべての仮説が成り立たないことを証明することで、間接的に自説を証明する。

従って、その証明はとっても困難なものになる。そして、多くの場合、「考えられるすべての仮説」が「現状の通常科学の理論ひとつ」で、「成り立たないことの証明」が「現状の通常科学の理論で説明がついていない」という形式に陥る。これは詭弁のひとつ"God of the gaps"論（科学で説明できないものは神様のせいなのさ）になる。

そのことをインテリジェントデザイン理論家Dr. William DembskiとDr. Michael Beheは、「インテリジェントデザインの反証可能性」を論じることで、あらわにしてしまっている。

- [Dembskiの「インテリジェントデザインの反証可能性」](#)
- [Beheの「インテリジェントデザインの反証可能性」](#)
- [Discovery Instituteの「インテリジェントデザインの反証可能性」](#)

そして、インテリジェントデザイン支持者のなかにも、インテリジェントデザインは"Negative Argument"であり、検証できないことを認める者もいる。

- [反証可能性がないと認めるインテリジェントデザイン支持者Dave Scot](#)

### インテリジェントデザインのもうひとつの反証不可能性

「進化論で説明されれば、"それ"がデザインだという主張は反証される」というインテリジェントデザインの個々の主張についての反証可能性を受け入れても、インテリジェントデザイン"理論"の全体としては反証不可能だという問題が残る。このことを哲学者Soberは指摘する。

- [Soberは指摘する「インテリジェントデザインは反証されない」](#)

このSoberの指摘のような、原理的に反証不可能な主張のわかりやすい例として、「真のスコットランド人詭弁(No True Scotsman Fallacy)」がある。これは、どれだけ反証事例を積み上げても、反証されることがない主張の典型である。

- [No True Scotsman Fallacy](#)

---

### これは確かにクールだ

進化論において、「仮説・仮説に基づく予測・実験/観察による検証」のループが華麗に回った最近の例。

- [Tiktaalikの発見](#)

## "還元不可能に複雑な"血液凝固系の分解

---

### 関連する創造論者の主張

- CA202 進化論は証明されない
  - CA210 進化論は予測を作らない
  - CA211 進化論は反証不可能
  - CA211\_1 Karl Popperは進化論は検証不可能だと言った
-